

## 社会性・コミュニケーションスキルの学習をねらった小集団活動の紹介 ～未就学児童を対象にした小集団活動、にこにこタイム実践報告～

2023年12月 6日  
札幌市自閉症・発達障がい支援センター 塚本

### (1)活動を始める前に

#### ☆対象児

当センター機関支援先の児童発達支援事業所にこ（北野、平岡ルーム）に通う5～6歳の発達障害傾向（または診断）のある幼児 4名（A、B、C、D）

#### ☆目標設定

普段の様子やライフステージを踏まえたニーズ、社会性のアセスメントから、それぞれに下記のような目標を設定しています。お子さんによっては、小集団活動の他に、個別場面でスキルを練習することが必要と考えられ、2つの場面における目標を立てています  
(P.3～5に、参考として、BとCのみらくる（\*）のステップシートも添付していますので、ご参照ください。)

#### 各対象児の目標

- <A>個別場面：大人に拒否のコミュニケーション（やりたくない、いらぬ、やめて等）を伝えることができる  
小集団場面：小集団場面で、他の子どもに拒否のコミュニケーションを伝えることができる
- <B> 個別場面：大人とのやりとりの中で、1語文での5種の要求をすることができる  
小集団場面： 3つの小集団遊びで並行遊びと共有ができる
- <C>小集団場面：社会性スキルに関わる新しい3つの概念（相手のしていること、相手の立場、気持ち）を理解して振る舞う
- <D>個別場面：近くにいる大人に、二語文で5種の要求をすることができる  
小集団場面：3つの小集団遊びで物の共有や協力をして遊ぶことができる

#### ☆活動設定

練習場面：A,B,Dについては、個別場面と小集団場面を設定。

主活動：児童発達支援事業所で実施がしやすく、また対象児らが興味を持ちやすいであろう「制作活動」、「ゲーム（おもちゃ遊び）」としました。また、各活動の題材には、みらくるの余暇モチベーションシートから「動物」、「おさるのジョージ」などと参加児の興味関心を取り入れています。

小集団活動の内容はP.2の通りです。活動内容や通所状況によって、参加する幼児が異なっています。

（個別場面や小集団場面での様子、教材やおもちゃの一部をP.6に載せています）

### (2)プログラム運営上のポイント

☆小集団活動（場面）はメインスタッフ1名、サブスタッフ2名で実施しました。メインスタッフは、小集団活動の司会進行をし、サブスタッフは、狙いに応じて対象児にプロンプト（行動のヒント）を出したり、活動がスムーズに進むよう、物の用意など環境整備を行いました。

☆目標や進捗状況、活動の狙いなどを関係スタッフと共有するため、みらくるの支援のポイントまとめシートとステップシートを使用して活動を運営しました。

### にこにこタイム活動プログラム

（この他に、個別場面や、にこにこタイムのメンバーではない幼児とスキルを練習したりもしています。）

|    | 活動                       | 参加児     | 狙いのステップ                                   | モチベーション            |
|----|--------------------------|---------|---|--------------------|
| 1  | ファイル作り                   | B,C,D   | 小集団活動への動機づけ                               | 好きなキャラクターシールなど     |
| 2  | 制作：動物園作り                 | A,B,C,D | 小集団活動への動機づけ                               | 全員：制作、A、D：動物園      |
| 3  | ゲーム：オリジナルミッケ             | A,B,C,D | A:他児へプロンプトあり要求/B:並行遊び/ (C:ナラティブ体験)        | 全員：ゲーム形式、好きなキャラクター |
| 4  | ゲーム：オリジナルミッケ 2           | A,B,C,D | A:他児へプロンプトあり要求/B:並行遊び/ (C/D:ナラティブ体験)      | 全員：ゲーム形式、好きなキャラクター |
| 5  | 制作：折り紙（きのこ）              | A,C     | A:他児へプロンプトあり要求/C:相手の立場に立つ                 | Aきのこ<br>C折り紙       |
| 6  | 制作：折り紙（動物）               | A,C     | A:他児へプロンプトあり要求/C:相手の立場の考慮                 | A動物<br>C折り紙        |
| 7  | 制作：雪だるま                  | A,B,C,D | B:活動に入る時に声をかける/C:相手の立場の考慮/D:貸し借り          | 全員：制作、雪だるま         |
| 8  | ゲーム：トミカ                  | A,B,C   | A:他児への要求B:活動に入る時に声をかける/C:相手の立場に立つ         | 全員：トミカ             |
| 9  | ミッケ                      | A,C     | A:他児への要求/C:相手の立場に立つ                       | 全員：みっけ             |
| 10 | ゲーム：黒ひげ危機一発              | A,B,C   | A:他児への要求B:活動に入る時に声をかける/C:相手の立場に立つ         | 全員：知っているおもちゃ       |
| 11 | お絵描き<br>(怪獣の森シートの続きを描こう) | A,C     | A:他児への要求言語/B:活動に入る時に声をかける/C:相手の立場の考慮      | A怪獣<br>C折り紙        |
| 12 | 制作：粘土（動物）                | A,B,C,D | A:他児への要求/B:活動に入る時に声をかける/C:相手の立場に立つ/D:貸し借り | 全員：粘土、動物           |
| 13 | ゲーム：ピクス                  | B,D     | B：他児と物の共有/D:協力                            | 全員：ピクス             |
| 14 | ゲーム：積み木                  | B,D     | B：他児と物の共有/D:協力                            | 全員：積み木             |
| 15 | ゲーム：チャギントン               | B,D     | B：他児と物の共有/D:協力                            | 全員：チャギントン          |

### (3) 支援（指導方法や環境調整）のポイント

参加児の理解のしやすい指導方法や工夫を用いています。

☆ソーシャルナラティブ（P.7 参照）

未就学のお子さんは、字が読めたとしても、字を読む学習方法（読めば知りたいことが知れる！という学習方法）が身につけている、とまでは言えない年齢だと思います。毎回、イラストと一緒に提示したり、すぐに状況理解などの本題の内容を示すのではなく、導入として、対象児の好きな題材を扱ったナラティブを何回か書き、ソーシャルナラティブを読むことへのモチベーションをあげることも大事になってきます。

☆ビデオモデリング、ビデオフィードバック（P.8参照）

社会性スキルの学習に課題のあるお子さんの中には、他児の表情や様子に注目をしたり、自分の行動を振り返ったりすることに苦しさがある子もいると思います。お子さんの良い行動を撮影をして、一緒に見て褒めたり、相手のお子さんの良い表情などに注目を促して強化を狙いました。

（「Aくんが見せてあげられたから、Bくん嬉しそうにしているよね！」など）

☆リマインダーカード

要求言語がすべて「貸して」になるお子さんに対して、スキルのヒントとして使用しました。

☆環境刺激への配慮：刺激がお部屋の角に場所を設定し、実施しています。

個別はさらに刺激の少ない別部屋で行なっています。

Bのステップシート（個別）

ステップシート No. 1 (B, 個別)

期間 2022年 8月 1日 ~ 2023年 1月 31日

| 具体的な行動目標         |   | 大人とのやりとりの中で、1語文で5種の要求（かして、あけて、とってなど）をすることができる。                        |   |   |   |  |
|------------------|---|---|---|---|---|--|
| 現状               |   | 欲しいものがあるとき、他児が使っていることに気づかず、取ってしまう。                                    |   |   |   |  |
|                  | STEP 1  | STEP 2  | STEP 3  | STEP 4  | STEP 5  |  |
| ジェスチャーや言葉で要求を出せる | Pありで言葉で要求を出せる   | Pありで言葉で要求を3種出せる   | Pなしで言葉で要求を3種出せる   | Pありで言葉で要求を5種出せる   | Pなしで言葉で要求を5種出せる   |  |
| 1セッション中5回        | 1セッション中1回以上1種以上   | 1セッション中1回以上1種以上   | 1セッション中3回以上1種以上   | 1セッション中3回以上1種以上   | 1セッション中3回以上1種以上   |  |
| 1                | ○ (8/1)   | ○ (8/20) 「かして」  | ○ (9/7) 「ちょうだい」   | ○ (10/14) 「とって」   | × (11/2) 複数種が1回ずつ   |  |
| 2                | ○ (8/3)   | ○ (8/24) 「あけて」  | ○ (9/14) 「いっしょにやる」  | × (10/17) 「しまって」  | ○ (11/16) 「とって」   |  |
| 3                | ○ (8/5)   | ○ (8/31) 「おして」  | × (9/16) 「ちょうだい」 重  | ○ (10/20) 「等身とって」   | ○ (12/9) 「見せて」  |  |
| 4                | ○ (8/17)  |   | ○ (10/3) 「かして」  |   | ○   |  |
| 5                | ○ (8/19)  |   |   |   |   |  |
| 6                |   |   |   |   |   |  |
| 7                |   |   |   |   |   |  |
| 8                |   |   |   |   |   |  |
| 9                |   |   |   |   |   |  |
| 10               |   |   |   |   |   |  |
| 合格基準             | ○：できた<br>△：ジェスチャーや言葉も記載する<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>(Pはプロンプトの意)<br>○が5個で次へ                  | ○：できた<br>×：やらない<br>3種の要求の言葉で○がついたら次へ                                  | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>3種の要求の言葉で○がついたら次へ                     | ○：できた<br>×：やらない<br>5種の要求の言葉で○がついたら次へ                                  | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>5種の要求の言葉で○がついたら次へ                     |  |
| 関わり方             | ・要求の場面で先に手が出たため、いきなり怒り泣きのようになり、適切な声の大きさや調子で要求の言葉を言うことを模倣してもらおう。                             | ・自ら言えない様子が見られるときはモデリングや言語P入れる<br>・相手の目を見て言えない場合は、相手の視界に自ら入り注目して言うよう促す | ・自ら言えない様子が見られるときはモデリングや言語P入れる<br>・相手の目を見て言えない場合は、相手の視界に自ら入り注目して言うよう促す | ・自ら言えない様子が見られるときはモデリングや言語P入れる<br>・相手の目を見て言えない場合は、相手の視界に自ら入り注目して言うよう促す | ・自ら言えない様子が見られるときはモデリングや言語P入れる<br>・相手の目を見て言えない場合は、相手の視界に自ら入り注目して言うよう促す |  |
| 支援               | ・大人と1対1<br>・30分1セッション<br>・好きな遊びを用意する  | ・大人と1対1<br>・30分1セッション<br>・好きな遊びを用意する                                  | ・大人と1対1<br>・30分1セッション<br>・好きな遊びを用意する                                  | ・大人と1対1<br>・30分1セッション<br>・好きな遊びを用意する                                  | ・大人と1対1<br>・30分1セッション<br>・好きな遊びを用意する                                  |  |
| その他／特性           | ・用意するおもちゃ：普段遊ぶおもちゃでハードル下げる、他には普段遊ばないおもちゃや遊びで遊べるものを増やす、欠損系の遊び（福笑いの的なものなど）、ぜんまい、自販機、もぐらたたき、など |   |   |   |   |  |

02-009目標設定

02-009Ver.3.2

Bのステップシート（小集団）

ステップシート No. 1 (B, 小集団)

期間 2022年 8月 1日 ~ 2023年 1月 31日

| 具体的な行動目標                      |   | 3つの小集団遊びの中で、並行遊びや共有した遊びができる。                               |  |  |  |  |
|-------------------------------|---|--|--|--|--|--|
| 現状                            |   | 自分の遊び方で遊べないときに怒り泣きする。                                      |  |  |  |  |
|                               | SETP1   | SETP2  | SETP3  | SETP4  | SETP5  |  |
| 周囲の大人やお友達と同じおもちゃで1セッションの間、遊べる | 1. 「入れて」と言って入るまたは<br>2. 「入れて」と言われて「いいよ」と言える<br>(3種類の並行遊びで1,2ともに1回以上言える) | 1. 「かして」と言う<br>2. 「かして」と言われて「いいよ」と言える                      | 大人と物の共有ができる  | 大人と他児の3人で物の共有ができる  | 他児と二人で物の共有ができる   |  |
| 3種類の並行遊び                      |   |  |  |  |  |  |
| 1                             | ○ (8/2)   | × (12/13)  | ○ (2/10) お絵かき、恐竜   | ○ (3/3) トミカ  | ○  |  |
| 2                             | ○ (9/13)  | ○ (12/23) プラレール  | ○ (2/25) UNO   | ○ (3/7) ビクス  | ○  |  |
| 3                             | ○ (10/18)   | ○ (1/23) トミカ   | ○ (2/28) トミカ   | ○ (3/8) UNO  | ○  |  |
| 4                             |   | ○ (2/1) ブロック   |  |  |  |  |
| 5                             |   |  |  |  |  |  |
| 6                             |   |  |  |  |  |  |
| 7                             |   |  |  |  |  |  |
| 8                             |   |  |  |  |  |  |
| 9                             |   |  |  |  |  |  |
| 10                            |   |  |  |  |  |  |
| 合格基準                          | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>3種類の遊びで○がついたら次へ                         | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>3種類の遊びで1,2それぞれの場面で○がついたら次へ | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>3種類の遊びで1,2それぞれの場面で○がついたら次へ | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>3種類の遊びで1,2それぞれの場面で○がついたら次へ | ○：できた<br>△：Pありでできた<br>×：やらない<br>3種類の遊びで1,2それぞれの場面で○がついたら次へ |  |
| 関わり方                          | ・モデリングでやりとりの掛け合いを見せたり、模倣を促す   | ・モデリングでやりとりの掛け合いを見せたり、模倣を促す                                | ・モデリングでやりとりの掛け合いを見せたり、模倣を促す                                | ・モデリングでやりとりの掛け合いを見せたり、模倣を促す                                | ・モデリングでやりとりの掛け合いを見せたり、模倣を促す                                |  |
| 支援                            | ・10分から20分<br>・本人の好きな遊び、わかる遊びを設定する                                       | ・10分から20分<br>・本人の好きな遊び、わかる遊びを設定する                          | ・10分から20分<br>・本人の好きな遊び、わかる遊びを設定する                          | ・10分から20分<br>・本人の好きな遊び、わかる遊びを設定する                          | ・10分から20分<br>・本人の好きな遊び、わかる遊びを設定する                          |  |
| その他／特性                        |   |  |  |  |  |  |

02-009目標設定

02-009Ver.3.2

## Cのステップシート (小集団)

### ステップシート No.1 (C)

期間： 2022年 7月 28日 ~ 2023年 3月 31日

具体的な行動目標： 小集団活動で、“相手の立場”に関する新しい概念を理解して振る舞う 3つの概念を3つの遊びで

現状： 他の子と遊んでいる時に、相手の状況に関わらず、自分の考えや遊び方を同じように相手にも求める。注意されるとやめるが、きょんととしており、何がいけなかったのかは理解していない様子がある。

|                                  | SETP1   | SETP2   | SETP3  | SETP4  | SETP5 |
|----------------------------------|---|---|--|--|-------|
|                                  | 好きな話題と褒めるナラティブを大人と一緒に読む<br>3つ<br>(ナラティブへのポジティブな体験をする)   | 新しい1つの概念を理解して、振る舞う<br>3つの小集団遊び<br>(相手にとって見えやすい)   | 2つ目の概念を理解して振る舞う<br>3つの小集団遊び<br>(相手が見たいことは自分と違う時がある) 目の前にあるもの   | 3つ目の概念を理解して振る舞う<br>3つの小集団遊び<br>ものがない状態<br>(相手が見たいことは自分と違う時がある)<br>相手の様子に注目   |       |
| 1                                | ○ (7/28)  | ○ (11/11)*メモ  | △ (12/23)  | ○  |       |
| 2                                | ○ (9/9)   | ○ (12/13)   | ○おもちゃ遊び  | ○  |       |
| 3                                | ○ (10/6)  | ○ (12/15) 「ミック宝探し」  | ○おもちゃ遊び  | ○  |       |
| 4                                | ○ (10/13)   |   | ○おもちゃ遊び  |  |       |
| 5                                | ○ (10/17)   |   |  |  |       |
| 6                                |   |   |  |  |       |
| 7                                |   |   |  |  |       |
| 8                                |   |   |  |  |       |
| 9                                |   |   |  |  |       |
| 10                               |   |   |  |  |       |
| 合格基準                             | ○ 読む<br>△ 読まない<br>3つのナラティブ体験で次のステップへ<br>・ナラティブと一緒に読む  | ○ 理解して振る舞う<br>△ プロンプトありで振る舞う<br>× 振る舞わない<br>3種類の遊び(教材)○で次のステップへ<br>・理解した振る舞いができれば即決める「すごいね!」「さすが」<br>・理解した振る舞いに対し、他の子がポジティブな反応をしているときは、法目を促し、「○○君うれしそうだね」など、ナラティブの言葉とリンクさせる<br>・ナラティブと一緒に読む | ○ 理解して振る舞う<br>△ プロンプトありで振る舞う<br>× 振る舞わない<br>3種類の遊び(教材)○で次のステップへ<br>・理解した振る舞いができれば即決める「すごいね!」「さすが」<br>・理解した振る舞いに対し、ナラティブの言葉とリンクさせFB<br>・ナラティブと一緒に読む | ○ 理解して振る舞う<br>△ プロンプトありで振る舞う<br>× 振る舞わない<br>3種類の遊び○で達成!<br>・理解した振る舞いができれば即決める「すごいね!」「さすが」<br>・理解した振る舞いに対し、ナラティブの言葉とリンクさせFB<br>・ナラティブと一緒に読む |       |
| ／問<br>教<br>わ<br>え<br>り<br>方<br>方 |   |   |  |  |       |
| 支<br>援                           | ・ナラティブは、興味関心を参考に作成<br>・△の場合は、ナラティブを見直す<br>・ナラティブは、興味関心を参考に作成  | ・20分程度の小集団活動を設定する本人の好きな遊びをいくつか用意<br>・活動前にソーシャルナラティブによる状況の理解をするセッションを設ける<br>・活動後に、FBを行う。<br>・○や△の場合は、理解(ナラティブ)の確認をする<br>・ナラティブは、興味関心を参考に作成   | ・20分程度の小集団活動を設定する本人の好きな遊びをいくつか用意<br>・活動前にソーシャルナラティブによる状況の理解をするセッションを設ける<br>・活動後に、FBを行う。<br>・○や△の場合は、理解(ナラティブ)の確認をする<br>・ナラティブは、興味関心を参考に作成          | ・20分程度の小集団活動を設定する本人の好きな遊びをいくつか用意<br>・活動前にソーシャルナラティブによる状況の理解をするセッションを設ける<br>・活動後に、FBを行う。<br>・○や△の場合は、理解(ナラティブ)の確認をする<br>・ナラティブは、興味関心を参考に作成  |       |
| その他<br>／<br>特<br>性               | ナラティブへの動機付け (step2以降は、普段の療育場面でも、褒めるストーリーや本人の好きな話題のストーリーを読んで、読むことへのモチベーションを維持できるよう支援する)<br>スキルの維持と強化 (step3以降も、前のstepで学んだ概念を理解した振る舞いがあれば、即決める。2,3セッションに1回は、前のナラティブを見て復習する時間を設ける) |   |  |  |       |

02-009 目標設定

02-009Ver.3.2

## 活動紹介 (一部)



### #1 動物園づくり

好きな動物フィギュアを選んで、その動物がいる場所に色を塗ったり折り紙で装飾したりして、オリジナルエリアを作りました。まだ協力して作るということはまだ難しくても、みんなで同じものを作ったということを経験できる制作活動だと思います。



### #2.3 オリジナル みつけ

子どもが興味のあるようなキャラクターや絵本のページを2枚印刷し、1枚の方からは、見つけて欲しいキャラクターや絵を切り抜いてピースとして用意します(キャラクター、車の写真など)。子どもたちには、配られたピースを「せーの」で探して、組み合わせてもらいました。子どもたちにとって、興味があるものを用意しているため、注目がしやすく、準備も簡単なので、ちょっとした小集団活動にちょうど良いと思いました。また、何ターンするかは子どもの調子や当日の他の活動との兼ね合いなどで調整できるので、おすすめです。また、“待つ”、“相手の様子を見る”など、サプ的に社会性スキルの学びも狙える活動になっていると思います。



### #13 ピクス

難易度が違う見本を見て、木の板とゴムの積み木で同様のものを作るという遊びです。個別活動では“見本を見て取り組む”、小集団活動でも“順番にやる”、“協力して取り組む”など、あらゆるスキルの練習に活用できるおもちゃでした。難易度もさまざまあるので、より幅広い年齢のお子さんで遊べるおもちゃだと思います。



### 小集団活動の様子

部屋の角にテーブルと椅子を設置し、パーテーションを立て、他児と場所を区切り気が散らないよう、環境調整をしています。

## 支援教材紹介（一部）

**おさるのジョージのひみつ 2**

ぼくのなまえは、**て**です。  
 ぼくは、**おさるのジョージ**が好きです。きょうはまた、○○さんと、おさるのジョージの**ひみつ**の**はなし**をします。

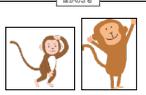
ジョージは、おさるさんですが、じつは、ほかのおおきなおさるさんにある、**からだのいちご**が**あり**ませぬ。

ぼくは「それはいったいどこなんだろう？」と、ほかのさるのいらすとくらべて、みつけてみようとおもいます。

ジョージ



ほかのさる



ないところを○をつけます。

て ・ あし ・ しっぽ

( ) だということがわかりました！  
 これはほんつんです。ぼくは、もつと**ジョージのひみつ**がしれるとよいとおもいます。

**C君の導入ソーシャルナラティブ：** Cの支援教材としてソーシャルナラティブを活用しました。本人がモチベーションを持ってソーシャルナラティブを読むことができるよう、支援の導入時や支援経過で、C君が好きなおさるのジョージやトミカを題材に書いています。

**あいてのみえかたはどうなっているんだろう？**  
 ～あいてがみやすいようにみせるほうほうをかかんがえよう～

ぼくのなまえは、いわもとあきです。  
 ぼくは、にこで、おともだちとおりがみのおぼんをみたりぼけもんのずかんをみるがあります。

みぼんやぼんをだれかとみるときは、じぶんも、おともだちも、みやすいほうがいちよもいれませぬ。みんながみやすいと、みんなうれしくなれよう。

みぼんをだれかとみるときは、おともだちのみえかたはどうなっているかな、じぶんもあいてもみやすいかなと、かかんがえるのもよいかもしれませぬ。

ぼくもおともだちもみぼんがみやすく、みんな「みえやすいな」「たのしいな」というきもちになるかもしれませぬ。ぼくは、おともだちも**もつとたのしくあそべる**とうれしいなとおもいます。

～よいみせかたはどれだろう？～

( )

いっしょにみる



( )

ひとりみる

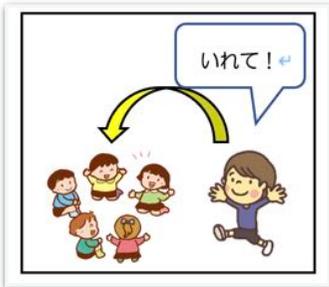


( )

じゅんばんにみる




**ビデオフィードバック：** お子さんの良い行動を撮影をして、一緒に見て具体的に褒めたり、相手のお子さんの良い表情などに注目を促して、スキルの強化を狙いました。（「Cくんが、見本を見やすくしてあげているから、Bくん嬉しそうにしてるよね！」など）



**リマインダーカード：**  
 他児へ要求言語を出すときに、要求を出すことができても、まだ適切な言語が出にくいお子さんに対して（要求言語がすべて「貸して」となってしまう）お子さんに対して、スキルを行うヒントになるように使用しています。

## <活動参加スタッフから>

### にこ 長木さん

- ・小集団活動での取り組みをすることで、それまでは自己完結しがちな遊び方だった児童が、一緒に活動している他の子どもの様子に楽しげに反応したり、笑顔で感想を言ったりするなど、他者との活動の楽しさを感じてくれるようになった。
- ・子どもが要求を言語化する前に、職員が無意識に「～ほしいだね？」など、気持ちを汲み取ってしまうことにより、本人が言語化する必要性がなくなってしまう場面があったが、関わり方について、改めて確認し全員で統一することでより効果的に練習をすることができた。
- ・環境刺激についての調整で苦戦した。
- ・意義通りになりがちな言葉の理解や、空気読みなどについての状況理解への支援では難しさを感じた。引き続き、勉強をしていきたい。

### にこ平岡 斎藤さん

- ・小集団活動で使うスキルを個別活動で習得してから小集団活動で実践できるため、お子さんにとって失敗が起きにくく、その後の日常生活でも般化がスムーズだった印象がある。
- ・スタッフがお子さん全員の特性や性格だけでなくお子さんそれぞれの活動の狙いや目標を把握していないと、自分の担当していないお子さんをフォローする際にその子に適した手助けが行えない、またはスキル獲得の妨げになる場合があると感じた。
- ・今回4人で活動することもあれば2人、3人で活動することもあり、参加児のメンバーにもよるかもしれないが、個別に近いほどお子さんの特性に配慮して活動させてあげられた場面が多く、スタッフの私自身も取り組みやすいと感じることが多かったように思い、小集団活動の中でスキルを狙う難しさを実感した。

### おがる塚本

- ・2023年5月までに、対象児全員が目標をクリアして、それぞれ次のステージへ進んでいます。
- ・お子さんによっては、当初想定していた以上に、小集団場面でのセッション前に個別場面でのスキル練習が必要だった印象です。日々の支援で、なかなか小集団場面でスキルが発揮できないというお子さんがいたら、その前に、個別場面での練習といステップを入れてみるのも良いかもしれないと思いました。
- ・サブのスタッフの役割は、とても大事だと思いました。どの場面で、手伝いをした方が良いかも打ち合わせておく必要があるため、紙面や口頭での共有は必須だと思います。
- ・活動の中身に迷われることが多いと思いますが、参加する子どもが興味を持つことができれば、本当に何でも良いのだなと思いました（活動を始める前に、お子さんの興味関心と認知特性（理解力など）を把握していたことは、活動の検討がスムーズに進んだ印象です）。ただ、興味関心の狭いお子さんの場合、活動のバリエーションを考えることに苦労することもありました。狭いと思える興味の中でも、キャラクターは変えず遊び方を変えるなどし、バリエーションを増やすことができたりし、柔軟に考える発想が改めて大事だと思いました。
- ・にこのスタッフさんもおっしゃっているように、改めて、小集団活動は、お子さんの新しい様子が見えますし、他者とのやりとりを学ぶ場としては、本当に有効だと思いました。関心がありましたら、別紙ガイドラインも参照していただき、ぜひ取り組んでみていただきたいなと思います！

\*みらくるはおがるが作成している支援を効果的に進めるための支援計画パッケージになります。  
 \*上記幼児さんの保護者さまには、事例を紹介する旨、了承をいただいております。ご協力をいただきましたお子様、保護者の皆様は誠にありがとうございました。  
 \*もっと詳しく知りたいなどがありましたら、おがるまでお問い合わせください。